



# 教育現場における革新と承継とは

横浜国立大学教育人間科学部  
附属横浜中学校 校長 加藤 圭司

平成二十五年四月から、附属横浜中学校で校長職を務めさせていただいております。どうぞ宜しくお願いいたします。

同窓会の皆様には、日頃から母校の教育に關しまして温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、本校第六十五期卒業生百三十四名は、三月八日(土)に卒業式を終え、元気に巣立って行ってくれました。そして、四月には、第六十八期生を迎えることとなります。開校七十周年という節目も、もうすぐそこに迫つて来たというところでしようか。

ここでは、附属横浜中学校の近況を紹介しながら、私が本校に着任してから感じていることについて、述べさせていただきますと思います。

本校は、平成二十三年度から

教育現場におけるICT機器の利活用に関する国の実証研究である、総務省「フューチャースクール事業」ならびに、文部科学省「学びのイノベーション事業」の指定を受け、これに携わってきております。これらの事業の予算規模は膨大で、全生徒に一人一台のタブレットパソコンと校内における無線LAN環境の整備、全教室に七十七インチの電子黒板の設置など、まさにインターネット・スクールと言える環境が整備されました。

当然のことながら、このような学習環境の変化は、授業そのものに革新をもたらしています。教室内の自分の机上からインターネットの世界に接続できたり、電子黒板は、瞬時にクラスメイトの学習状況を映し出してくれたり、というように。

一方、従来からネット環境の安易な位置づけによる負の効果や懸念する声もあり、本校では、ICT機器を用いるからこそ必要と判断される「自分の手で書く」行為や「本物に触れる」活動を、先生方も生徒自身も意識し吟味するようになってきているところです。

バーチャル、リアルを問わず多様な経験・体験を通して、生徒一人一人がじっくりと考え、本

質を見抜いていく(判断する)過程を大事にする学習は、これからの社会を生き抜いていくために必要な基礎的な力の育成につながるものだと思います。そしてそれは、本校が掲げている「リテラシー」の育成と言い換えることもできるでしょう。

社会人として必要な基礎的な力の育成は、時代を超えて不易であり、承継していかなければならない学校の役割であります。

ICT機器の利活用が授業を変え理解の深まりをもたらし、であれば、それは、社会人として必要になる基礎的な力とともに、学ぶことの楽しさを感じさせることにつながっていくはずで、まさに、革新が伝統と融合する中で、承継すべき新たな、そして確かな伝統を創り上げる営みが、今の附属中学校の中にあるのではないかと、日々感じながら過ごしているところです。

これらの取り組みを通じて、地域の方々に信頼される学校づくり、附属としての使命をまっとうできる学校づくりを目指し、教職員の力を結集して取り組んでいきたいと思っております。

今後とも附属横浜中学校の発展・充実のためにお力をお貸しいただきますよう、お願い申し上げます。